

県岳連理事会報告

報告者 前川文雄

期日：令和2年3月12日（木）19：00～20：30

場所：シーハット大村コミセン 2F 第3会議室

出席：古川会長、前川理事長、渡邊遭対委員長、松崎競技委員長、古川国際委員長、
藤田自然保護委員長、小畑ジュニア委員長、増田事務局長

理事：(長崎)大塚(代)、(商短)汐除、(学士会)智多(代)、(佐世保)古川(代)、(諫早)藤田、
(大村)渡邊、(島原)上野、(北松)山辺、(東彼)石丸、(高体連)小畑、(長山会)泉

欠席：馬場指導委員長 理事：(登高会)小宮

議事

1 JMSCA 全国理事長会等の報告

①登山普及情報交換会

- ・全国的には高校山岳部員は増加している。入部動機のアンケートでは、楽しそうとか植物や星に興味があるなどが多く、山登りをしたいからという生徒は少なかった。
- ・日山協主催の少年少女登山教室は10年目を迎えたので廃止し、今後は各県で実施してほしい。学童や生涯学習との連携が望ましい。補助金は5万円。
- ・夏山リーダー講習会の講師養成講習を7月12日に九州で行う。熊本を予定。

①全国理事長会議

- ・2019年度に八王子で実施のIFSCクライミング世界選手権では、9千万円の赤字となった。預貯金の取り崩しなどにより4千万円まで縮小したが、多額の借入金が発生した。組織存続の根幹を揺るがす事態であり、財政再建諮問委員会を設置し、検証と改善策立案を進めている。予定していた広告料収入が入らなかった及び支出管理がずさんであったことが原因。
- ・東京オリンピックでのメダル獲得を重点事業とした。
- ・日山協創立記念事業としてクンプ山群トレッキングを10月に行う。13日間488千円。

2 各委員会から令和元年度の事業報告があった。

- ・佐世保ACはオーストラリアへ遠征したが、山火事の為に入山できず。
- ・3月の春季選手権大会（高体連）は、コロナウイルス禍により中止。
- ・日山協の自然保護指導員が長崎県は不在のため登録希望者を募る。
- ・新たに6名（うち女性4名）の指導者を登録
- ・九千部と経ヶ岳下部の固定ロープ調査、研修会の実施、氷雪技術研修会を稲佐山で実施。
- ・ジャパンカップの出場資格がジャパンツアー大会の成績によるポイント制になった。
- ・競技力向上対策費等補助金の報告書が提出された。補助金額3,567千円

3 令和元年度事業報告が承認された。

4 各委員会から次年度の事業計画について説明があった。

- ・黒木から横峯越しへ上るルートの梯子が老朽化。対応を検討する。
- ・登山大会は大村山岳会、具体は佐世保山岳会が担当。

5 令和2年度事業計画を一部修正し、4月の理事会で決定することになった。

6 県岳連の名称を「長崎県山岳・スポーツクライミング連盟」とし、略称は「長崎県岳連」。4月施行

7 その他 北松山岳会から会長他が出席のうえ退会届が提出され、了承した。

岳連の個人会員制度導入について、言及があった。

次回理事会は、4月中旬に開催予定。